

## 今月のテーマ

## 被爆70年の最後に



科学者などによる平和の会議「パグウォッシュ会議世界大会」が、先月長崎で開かれました。これまで広島では2回開かれています。長崎では初めての開催でした。

核実験の禁止や核不拡散条約(NPT)の制定などいくつもの功績があり、ノーベル平和賞も受賞したこの会議が、被爆70年という節目の年に長崎で開かれたことにはさまざまな意味があります。

世界中から集まった多くの科学者に、被爆地長崎を見てもらい、被爆者の話を聞いてもらえたことは大きな成果でした。ヤングパグウォッシュ会議に出席した若い科学者たちと長崎や全国の若者たちとの交流が行われたことも、未来につながる有意義な企画でした。

パグウォッシュ会議が受賞したノーベル平和賞のメダルの複製が長崎・広島両市に贈られ、長崎ではすぐに原爆資料館に展示されました。これも、同会議と被爆地が同じ目標を持ち連携していることを示す、一つの成果だと思えます。

そして、最後に出された「長崎宣言」の「長崎を最後の被爆地に」「対立を超えた対話を」と

いう二つの言葉は、永遠に変わらない人類のメッセージとして残ることになるでしょう。パグウォッシュ会議の開催は、議論の内容だけでなく、さまざまな意味で、長崎の歴史に残る出来事でした。

\* \* \*  
ベルギーにイーペルという小さな市があります。

人口は3万5千人ほどで、以前は繊維産業が盛んなまちでした。その栄華を物語るように、市の中心部にはとても立派な繊維会館があり、今は市庁舎として使われています。

このまちには、忘れてはならない歴史があります。第一次世界大戦で激戦地となり、60万人以上が犠牲になったのです。ドイツ軍が最初に本格的な毒ガス攻撃をしたまちでもあります。

連合国軍が戦場に向かう起点となったメンゲートという石造りの大きな門の下では、毎日午後8時に戦没者追悼のための式典が行われます。ラストポスト協会という民間団体に所属する市民がトランペット演奏をして、厳かな雰囲気になります。世界中から戦没者の家族が訪れ、花を捧

げます。

戦争の悲惨さを伝えようとする人の営みが、世界中にあります。どこも長崎の仲間です。

被爆70年の今年は、交流し、お互いのことを知り、仲間を増やすことが確実に平和をつくる力になる、ということに改めて感じた一年でした。パグウォッシュ会議もそうです。これから世界と交流し、平和をつくるまちになる、という長崎のビジョンに向かって、着実に歩いていきます。



\* \* \*  
被爆70年の今年は、市民の皆さんと一緒に、多くの発信をした年でした。

記念事業ではありませんが、12月には長崎を舞台にした映画「母と暮らせば」の上映が始まります。吉永小百合さん、二宮和也さんの主演です。どんな映画に仕上がっているのか、とても楽しみです。

被爆70年に、山田洋二監督が、長崎を舞台にした平和の映画をつくってくださいましたことに感謝します。ぜひ皆さんも映画館にお出かけください。



出かけて見る・知るまちのオススメスポット



### 和のたずまい 寺町の歳時記

今月は師走。僧(しゅう)が町中を馳(は)せる月という意味で「師馳す」とした説があるという。そこで、寺院が建ち並ぶ寺町地区に出かけてみた。

長崎開港から江戸時代初期にかけて、中島川沿いに市街地が広がり、風頭山(かみづか)のふもとには寺社群が形成された。中島川・寺町界隈(かいはい)では、通りを散策したり、途中でカフェに立ち寄るのも楽しい。また、歳時記を活かしたこのエリアならではの催事も楽しみにのつだ。

そのひとつ、この地区のお寺では、大晦日(おおみそか)に除夜の鐘を突くことができるほか、いろいろな振る舞いも。例えば、興福寺の「除夜釜」では、抹茶と真つ白(まじろ)お汁粉が振る舞われる。寺町の鐘の音の中で、一年を振り返りながら過ごすのはいかがだろう。